

肱川

発行
肱川町企画調整室
電話肱川局 120
印刷 エヒメコープ印刷部

昭和49年6月末現在	
世帯数	1,118戸
人口	2,088人
男	2,151人
女	4,239人
計	比1人減
転入	10人
転出	11人
(出生)	4人
苑野尾	和氣美恵ちゃん
上鹿野川	和氣京子ちゃん
上寿山	金田大輔ちゃん
上協生	北田文子ちゃん
(死亡)	4人
苑野尾	美恵さん
中居谷	松田真光さん
中山共	榎山由雅さん

お母さん ぼくたち頑張ってます

夏休みが、もうすぐそこに近づいた。ある雨の日、保育所を訪ねました。うちの子泣いていないかな。みんなと仲良くやっているだろうか。お母さん、心配しておられるのではないのでしょうか。でも、ご安心ください。園児たちは、活発です。はきはきとあいさつもでき、おかたづけもできます。みんな元気です。

澄んでいる園児の目

つゆどきの雨は、おとなら「たなばた」の伝説やいには、うっとりしくやりきるような話を聞きました。来ません。しかし、保育所に来て、そんなうっとりさはいっぺんにふっとびました。

園児たちは、「たなばた」のたんざくを作っています。「たなばた祭り」は、園児たちにとって、楽しく夢のある行事の一つです。

園児たちは、保育さんか



午前9時

身体測定

「さあ、きちんとして……動いたらだめよ」

「おっちゃん。」と人なつっこく近づいてきました。「ぼくは、ドロパンをかいたんぜ。」と話し、す。そしたら一方は、「ぼくは、お星



午前10時

たなばたの作りものほんとにみんな夢中です。話しかけても聞こえません。

「おっちゃん。」と人なつっこく近づいてきました。「ぼくは、ドロパンをかいたんぜ。」と話し、す。そしたら一方は、「ぼくは、お星

「あれはお月さまが線香

夢と個性と

初めはただどろどろ、なったりされませんか。幼児の世界は純粋で夢が

「おっちゃん。」と人なつっこく近づいてきました。「ぼくは、ドロパンをかいたんぜ。」と話し、す。そしたら一方は、「ぼくは、お星

家庭の教え

園児と毎日生活している子。こんなさまざまなかたちから、家庭生活のしかた、

「しつけ」がよくわかるそ

と、家庭でのお母さんの

「しつけ」がよくわかるそ



午前11時30分

給食準備

「お当番さん、お願いします。」「はい、静かに待って下さい。」



午前11時40分

たのしい給食

おひるだ、おひるだ、ごあいさつ、おててもきれいになりました……いただきます。



午後1時30分

そうじ みんな仲良くおかたづけ、そうじは、そうじんがげもします。



午後2時

帰り仕たく

1日のおわり、歌をうたって別れます。先生さようなら、皆さんさようなら、またあした

としよりはあすのあなたのことです 親子と人権

最近、私達の生活の中で、ともすれば自分の立場を主張することに急いで、相手の立場を考えない風潮が目立っています。しかも、この風潮が家庭内の親子の関係にまで及んでいることも少なくありません。子供は心身ともにすこやかに生まれ育てられなければなりません。

老親は子や孫から敬愛され、やすらかな生活を保障されなければなりません。

ところが最近の新聞やテレビを見てみると、毎日のように赤ちゃんがロッカーの中に捨てられていたり、一人住まいの老人がひっそりと息たえ、何日もたつてから発見されたりしています。それぞれ事情はあつてのことでしょうが、しかし赤ちゃんを捨てる前にだれか相談相手がいれば、一人住いの老人にだれかが気をつけてあげていたら、こんなことはおこらないのではないのでしょうか。

肱川町が人権モデル地区として指定された機会に、今一度自分自身の家庭をふりかえり、うちの子は健全に育っているかどうか、あるいはおとしよりをいたわっているかどうかを考えて、ともに生きがいのある一生がすごせるようにしたいものです。

おとしより、それはあすのあなたです。毎月十五日(土、日、祭日の時は翌日)公民館で人権法律相談所を開いています。相談は無料ですからお気軽におたずね下さい。担当者は大谷、都谷文雄、中居谷、飛野虎生と法務局職員の方々です。

夏休み中のこどもの交通事故を防止しよう。七月十五日～八月十日(夏の交通事故をなくす運動)

